

図画工作科 学習指導案

松原市立松原北小学校

1. 日 時 令和7年12月2日(火)第5時限 13:40~14:25

2. 場 所 第4学年 教室

3. 学年・組 第4学年

4. 単元名 お話をつくろう (使用図書・教科書:日本文教出版)

5. 単元の目標

アートカードを見て感じたことや考えたことを基に想像を広げお話をつくる活動を行う。その中で、作品を味わい、自分なりの言葉で整理することや、友人のお話を耳を傾け共感したり異なる視点も楽しんだりする力をする。

6. 単元で取り上げる言語活動

アートカードを並べて、物語をつくるゲームを行う。つくった物語について交流したり、違った見方を発見したりする活動を通して、作品の見方、感じ方を広げるとともに、それを言葉で表現する力をつける。

自分の感じたことを進んで話したり、友人の思いを聞いたりして、お互いを認め合い、共通点だけでなく異なった考え方や感じ方を大切にする。

7. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○アートカードの作品から想像を広げてお話をつくり、伝え合う活動を通して、形や色の感じ、それらの組合せによる感じ、色の明るさなどが分かる。	○形、色などの感じを基に、自分のイメージをもつ。 ○美術作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。	○進んでアートカードの作品から想像を広げてお話をつくり、伝え合う活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり、楽しく豊かな生活を創造しようとする。

8. 指導にあたって

指導にあたっては、お話の質ではなく、美術作品のどこに着目したのか、どこから想像を広げていったのかといった点で価値付けることを意識したい。物語を言葉にして伝えることに際して、国語科では主語・述語、5W1H、つなぎ言葉などの学習をしてきた。また、宿題でも考えを広げたり深めたりするためのシンキングツール、ことばのたから箱などを活用しながらのお話づくりに取り組んでいる。図書の読み聞かせでは、物語の続きを想像したり、話したりすることで想像力を養ったり、伝えたり聞いたりする経験を積んできている。

これらの経験を生かし、教科を超えて、図画工作科でもお話づくりに取り組ませたい。

9. 指導と評価の計画(全3時間) ◎…記録に残す評価 ○…指導に生かす評価

次	時	主な学習内容	知技	思判表	主体	評価規準・評価方法
1	1	アートカードを見て、気づいたことを話す	◎	○	○	ワークシート
	2	美術に関する絵本に触れる			○	
2	1	指定した4点のカードで物語をつくる	○	○	○	ワークシート
	2	偶然出たカードで物語をつくる	○	◎	○	ワークシート

10. 本時の展開(4/4時間目)

(1) 本時の目標

作品を見ながら物語を考える活動を通して、作品のいろいろな表し方や材料による感じ方の違いがわかるようになる。

(2) 本時の評価規準

カードから物語を想像し、伝えることができる。友だちと自分の感じ方の共通点や違いに気づいている。

(3) 展開

時	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
	○本時の活動のめあてを知る。 4コマ物語をつくろう		
10	○全てのカードを裏返しにして並べ、各自4枚のカードを選ぶ。	○教師が例示し、お話しづくりのイメージを持たせる。	
5	○選んだカードを表にして、自由に並べ替え、その内容に合わせて物語をつくる。	○「いつ」「どこで」を入れて、4枚で話が完結するようにつくることを伝える。	
15	○グループ内で各自がつくった物語を順番に発表する。	○友だちのつくった物語を聞き、自分だったらどのような物語をつくるか、絵に対してどのようなことを感じたのかを交流するよう伝える。	
10	○グループで選ばれた物語をクラス全体に向けて発表する。		
5	○ふりかえりをする。(ワークシート)		【思・判・表】 友達と自分の感じ方の共通点や違いに気づいている。(ワークシート)

(4) 本時における具体的な子どもの状況(※本時の評価規準に関わる場面において)

おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況(C)への支援
アートカードを見てお話をつくり、伝えることができる。 友達のお話を聞き、自分の感じたことの共通点や相違点を伝えることができる。	お話をつくることが難しい児童には、見えた物、色や形などに注目し、お話をつなげられるように声かけする。